

2025(令和7)年度 自己評価・学校関係者評価報告書

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

東大阪市菱屋西 3-3-7 ☎577-8550

学校教育法第28条及び学校教育法施行規則第39条により、2025(令和7)年度の自己評価及び学校関係者評価を実施し、設置者に報告した内容

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる教育」、即ち、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間形成の基礎を培う。

2. 2025(令和7)年度重点的に取り組む目標・計画、及びその達成状況(期末評価)

(1)教育の質の維持・向上

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2025年度事業計画	期末評価
1	教員の質向上	1	研修(園内、園外)	【指標の設定】 —これまでの実態をもとに、教員評価の基準となる項目を選び、数値化を図る。	80%
2	教育課程の改善	1	体験型総合保育の内容点検・拡充	【保護者の視点調査】 —これまでの保護者アンケートなどについて、改めて確認・分析し、保育方法などの改善に資するデータを集める。	80%
3	預かり保育体制の改善	1	人的、設備的な面での体制再編	【預かり保育体制の確認】 —学園内のリソースを調査し、利用可能な施設等を調べる。 —非常勤の「フリー」とよぶ職員の勤務体制(時間など)についてどこまで変更できるかを検討する。	70%
4	施設設備の充実	1	現代の保育に必要な環境を整備	【熱中症対策】 —ミストの設置、芝生維持のための機械化などについて検討し、可能なところから導入を図る。 【遊具の調査】 —遊具のリストを作成し、更新などについて検討する。	80%

(2)子育て支援事業の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2025年度事業計画	期末評価
1	未就園児クラスのアップグレード・アップデート	1	クラス人数、週当たりの開催回数の検討	【2歳児保育の現状確認】 —2歳児保育の無償化が進められる中、未就園児クラスの位置付けや体制について検討する。「こども誰でも通園」についても配慮する。	70%
2	園庭開放の促進	1	未就園児クラスへの導入を見すえた0～1歳児向けサービスの開発	【保育ニーズの収集】 —園庭開放での保護者の希望について調査し、地域に求められている保育支援を探り、それをもとに可能なサービスを探る。	70%
3	地域社会との関係強化	1	地域の活動に向けて情報の収集及びニーズの掘り起こし	【情報収集】 —桜橋小学校学区内地域での自治会や子ども会の活動などについて情報を集める。 —小学校との連携について検討を始める。	80%

(3)運営体制の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2025年度事業計画	期末評価
1	安心、安全の確保	1	設備点検	【修繕計画への準備】 ―特に劣化が目立つ木造部などを重点的に調査する。	70%
2	大学、中学・高校との連携	1	児童教育学科、児童教育コースとの関係強化	【問題点の整理】 ―児童教育学科との関係(子ども研究所、子育てカレッジなど)について改めて検討し、望ましい協力関係を再構築するための準備とする。 ―高校生の園での活動内容について、高校の先生と改めて協議する。	80%
3	保護者との連携	1	保護者会との関係	【保護者参加について確認】 ―保護者会活動と園行事への保護者参加の状況を確認し、改善可能な点を探る。	100%

3. 総合的な評価結果

- ・2025年度は、第IV期中長期計画に基づき、「教育の質の維持・向上」「子育て支援事業の強化」「運営体制の強化」の3つの重点項目について計画的に取り組んだ。
- ・教育の質の維持・向上では、園内外の研修への積極的な参加と研修内容の共有を通じて教職員の保育力向上を図るとともに、日常的な情報共有により、子どもの状況や保護者対応について教職員間の共通理解を深めることができた。また、保護者アンケートの分析を進め、保育内容や教育課程の改善に向けた基礎資料を整理することができた。
- ・施設・設備面では、園児の熱中症対策としてベランダへのミストシャワーを設置するとともにエアコンや床暖房の更新を行い、安全で快適な保育環境の充実を図った。更に遊具や施設設備の点検・調査を進め、今後の計画的な更新に向けた基盤整備を行った。
- ・子育て支援では、キンダーカウンセリング事業の利用件数が年々増加しており、地域の子育て支援機能として着実に定着していることが確認できた。また、園庭開放や未就園児クラスにおける保護者ニーズの把握を進め、今後の事業改善に向けた方向性を整理することができた。
- ・運営体制では、地域小学校との「架け橋プログラム」への参加を通じて幼小接続に関する理解を深めるとともに、大学・高校との連携についても今後の協力体制の再構築に向けた検討を開始した。また、保護者との連携については、園行事や保護者会活動の状況を確認し、良好な信頼関係を維持することができた。
- ・一方で、預かり保育体制や未就園児クラスの運営、人材確保については、勤務体制の見直しやシフト制の導入など一定の改善を図ったものの、人手不足の解消には至らず、引き続き体制整備が必要である。また、アンケートのデジタル化やICT活用、公開保育の実施準備、地域への情報発信の強化などについても継続的な取組が求められる。
- ・総じて、2025年度は中長期計画に沿った各施策を着実に推進し、教育環境の充実や教職員の資質向上、子育て支援機能の強化などにおいて一定の成果を挙げることができた。
- ・今後は、これまでに蓄積した調査・分析結果を具体的な改善施策へと展開するとともに、人的体制やICT環境の充実を図り、地域から選ばれ続ける附属幼稚園を目指して取り組みを一層推進していく。

4. 今後取り組む課題_2026 年度計画

(1)教育の質の維持・向上

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	教員の質向上	1	公開保育と評価	【公開保育への準備】 __研修テーマを決め、スケジュールについて検討を始める。
2	教育課程の改善	1	体験型総合保育の内容点検・拡充	【デジタル化の推進】 __これまで紙ベースが多かったアンケートについて、Web 上でおこなえるようにする。
3	預かり保育体制の改善	1	人的、設備的な面での体制再編	【預かり保育体制の検討】 __預かり保育(長期休暇中を含む)の運営に関して、現状の環境で何をどこまでできるかについて、改めて検討する。

(2)子育て支援事業の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	未就園児クラスのアップグレード・アップデート	1	クラス人数、週当たりの開催回数の検討	【未就園児クラス体制の検討】 __未就園児クラスの運営に関して、現状の環境で何をどこまでできるかについて、改めて検討する。
2	園庭開放の促進	1	未就園児クラスへの導入を見すえた0～1歳児向けサービスの開発	【基礎資料の収集】 __地域の子どもの数の調査、幼稚園を希望する家庭の調査などを改めて行う。

(3)運営体制の強化

No	取組テーマ	No	アクション(目標のKPI的行動)	2026年度事業計画
1	安心、安全の確保	1	ICTを利用した方法	【ICT化の推進】 __幼稚園窓口での諸費用の徴収について、キャッシュレス化を推進する。
2	大学、中学・高校との連携	1	児童教育学科、児童教育コースとの関係強化	【学生ボランティアの推進】 __学生の経験値をあげるために行っているボランティアの受付を増やすために、何らかの報酬(例えば学生表彰に結びつけるなど)について検討する。
		2	各学科、コース、SILCなどとの関係強化	【英語体験の推進】 __週1回(月曜昼休み)のネイティブ教員の派遣を増やすために必要な体制などを SILC と検討する。

5. 学校評価委員会(学校関係者による評価委員会)の評価

評価委員会：2026(令和8)年 3月 23 日実施

学校評価委員会では、本園は 2026 年度入園予定者が 43 名となるなど、少子化が進む中にあっても多くの保護者から選ばれていることが高く評価された。その背景には、河内小阪駅から近く安全な立地環境に加え、大学附属幼稚園としての特色や安心感、さらに長年にわたり継続してきた遊びを中心とする保育内容への信頼があり、卒園生やその家族からも支持され続けていることが本園の大きな強みであるとの意見が示された。 一方で、今後は少子化の影響により園児数の維持が一層難しくなることが予想されることから、本園の教育内容や園庭開放などの魅力を地域へ積極的に発信し、卒園児や保護者ネットワークも活用しながら認知度向上に努めることが重要であるとの提言がなされた。 今後も、本園の特色や教育理念を広く発信し、地域から継続して選ばれる幼稚園づくりを進めていくことが期待される。
